

2021年アルゼンチン中間選挙 —与党連合敗北の要因とその影響—

菊池 啓一

はじめに

2015年大統領選に敗れて下野し、結束力が疑問視された正義党（ペロニスタ党）であったが、2019年の選挙を前に同党の諸勢力がクリスティーナ・フェルナンデス・デ・キルチネル前大統領（2007～15年在職、以下クリスティーナ）の呼びかけで選挙連合「全国民のための戦線」の名の下に団結した。そして、同年の大統領選でフェルナンデス元官房長官が現職のマクリ大統領を破り、再び正義党政権が復活することとなった。

当初は大統領のリーダーシップが疑問視もされていたフェルナンデス政権であったが、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延禍の初期対応には成功し、政権支持率も一時上昇した。しかし、その後は政権支持率も下降し、与党連合は2021年11月の中間選挙で敗北を喫した。それでは、「全国民のための戦線」はなぜ中間選挙で敗北したのであろうか。また、その敗北は今後の政権運営にどのような影響を与えるのであろうか。以下では、2021年中間選挙の結果を確認した上で、これらの問いについて考えてみたい。

2021年中間選挙の結果

2021年の中間選挙はコロナ禍を考慮して通常の10月ではなく11月14日に実施された。表1は同選挙結果をまとめたものである。257名の下院議員の任期は4年（2年ごとに半数改選）で、各州から2名（ティエラデルフエゴ州など5州）～35名（ブエノスアイレス州）が拘束名簿式比例代表制によって選出される¹。そのため、今回は2017年に選出された127名が改選対象となった。また、72名の上院議員の任期は6年で、各州で最多得票の政党・選挙連合から2名、その次に得票の多かった政党・選挙連合から1名選出される。2年ごとに3分の1にあたる8つの州で改選されるため、今回はコルドバ州、サンタフェ州、メンドーサ州、カタマルカ州、コリエンテス州、チュブト州、ラパンパ州、トゥクマン州でのみ実施された。

表1: 2021年中間選挙結果

	選挙前	改選 議席数	獲得 議席数	選挙後
下院				
全国民のための戦線	120	52	50	118
変革のために共に	115	60	61	116
正義党反キルチネル派及び 社会党	10	6	4	8
前進する自由	0	0	4	4
その他	12	9	8	11
上院				
全国民のための戦線	40	14	9	35
変革のために共に	26	9	14	31
正義党反キルチネル派	0	0	1	1
前進する自由	0	0	0	0
その他	5	0	0	5

出所：La Nación 紙の HP（www.lanacion.com.ar）、下院の HP（www.hcdn.gob.ar）、上院の HP（www.senado.gob.ar）のデータを基に執筆者作成

2017年の中間選挙でキルチネル派の分裂により下院で10議席を失ったため（菊池2018）、その失地回復も含めて過半数にあたる129議席の確保を目指した与党連合「全国民のための戦線」であったが、9月12日の予備選挙²の時点で野党連合「変革のために共に（旧カンビエモス）」の後塵を拝することが決定的となった。そのため、閣僚の交代（後述）に加えて緊急家族手当（IFE）の再支給などをはじめとする「経済対策」が打ち出され（La Nación, 8 de octubre de 2021）、大票田であるブエノスアイレス州では予備選挙時よりも3.10%ポイント票を上積みすることに成功した。しかし、全体としては改選前よりもさらに2議席を失う結果となり、かろうじて第一党の座を死守するにとどまった。

他方、今回の中間選挙の勝者となったのが中道右派の「変革のために共に」である。「共和国提案」、急進党、市民連合といった政党群で構成されているため、2019年の下野後の政党連合としての一体性が不安視されていたが、今回の選挙におけるフェルナンデス政権に対する批判票の受け皿となった。特に、

上院選においてはコルドバ州、サンタフェ州、メンドーサ州に加えてこれまで正義党の牙城であったラパンパ州でも与党連合をリードし、改選前よりも5議席多い14議席を獲得した。その結果、「全国民のための戦線」の上院議員数は全部で35名にとどまることとなり、1983年の民主化以降初めて正義党が上院で単独過半数を確保できない事態が生じたのである。

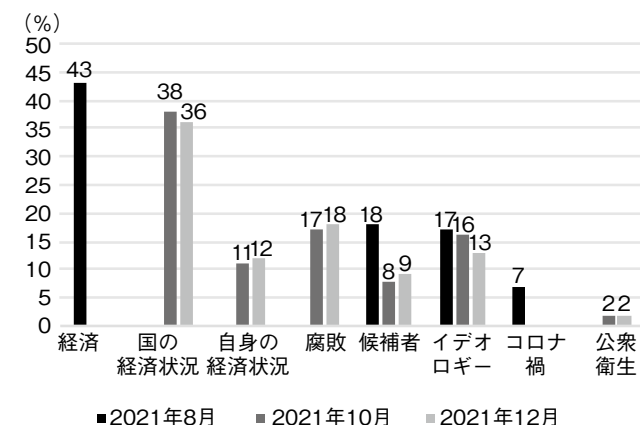
また2021年中間選挙のもう一つの特徴として、右派の躍進を挙げることができよう。2019年の大統領選では有効票の1.47%しか獲得できなかったエコノミストのホセ・ルイス・エスペルトであったが、中間選挙に向けて「前進する自由 (Avanza Libertad)」³を立ち上げ、同じくエコノミストであるハビエル・ミレイと共に下院選に出馬した。そして、同連合はブエノスアイレス州では7.50%、ブエノスアイレス市では17.03%を獲得し、エスペルトとミレイを含む4名の下院議員を新たに誕生させた。

与党連合敗北の要因

それでは、なぜ「全国民のための戦線」は2021年の中間選挙で敗北したのであろうか。ここでは、サン・アンドレス大学の「政治的満足と世論調査」プロジェクトによる全国の約1,000人の有権者を対象としたオンライン調査の結果をもとに考えてみたい。図1は「次のどの要素があなたの投票に最も強く影響しますか?」という質問に対する回答の分布を、図2は国家統計センサス局 (INDEC) によって公表されている社会経済指標を四半期ごとにまとめて示したものである。

図1のデータは中間選挙の結果のかなりの部分が

図1: 投票行動の決定要因



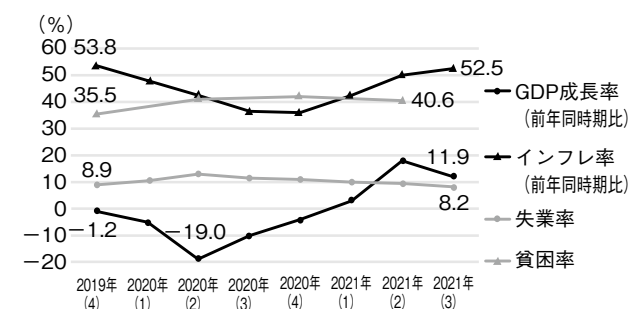
出所: サン・アンドレス大学の「政治的満足と世論調査」プロジェクト (www.udesa.edu.ar/espop) の調査結果を基に執筆者作成

経済投票によって説明されることを示唆している。すなわち、選択肢が「経済」となっていた2021年8月の調査では全回答者の43%が同選択肢を自身の投票行動の決定要因として挙げており、選択肢が「国の経済状況」と「自身の経済状況」に分けられた10月と12月の調査においても両選択肢の合計が40%台後半の値となっているのである。

多くの有権者が経済投票を行った可能性は、社会経済指標の推移からも推測できる。元々フェルナンデス政権は、マクリ政権 (2015～19年) 後半に急速に悪化し、2018年6月20日に国際通貨基金 (IMF) からのスタンバイ取極をとまなう緊急融資を受けるに至った経済状況に対する市民のネガティブな評価を反映して誕生し、コロナ禍以前は経済の立て直しが政権の至上命題であるとされていた (菊池2020)。しかし、図2から明らかであるように、アルゼンチン経済は依然厳しい状況のままである。政権交代が起こった2019年第4四半期と比べ、貧困率は40.6% (2021年第2四半期) に上昇しており、失業率はやや改善が見られるものの8.2% (2021年第3四半期) である。また、コロナ禍の影響により2020年第2四半期に前年同時期比-19.0%を記録したGDP成長率は2021年第3四半期には11.9%まで回復しているものの難しい状況にあり、外出禁止措置等にもなう消費の冷え込みによって逆に低下していたインフレ率は再び前年同時期比で52.5% (2021年第3四半期) に達している。さらに、図1の2021年10月と12月の調査結果において、「国の経済状況」が「自身の経済状況」を大きく上回っていることから、長期にわたる債務再編交渉が有権者の投票行動に影響を与えた可能性も想定することができよう⁴。

また図1に示されている経済以外の要因に注目すると、「コロナ禍」「公衆衛生」よりも「腐敗」が多

図2: 四半期ごとの社会経済指標の推移



(注) 貧困率は半期別データ。また、インフレ率は月別で集計されるため、各四半期の最終月の数値。

出所: 国家統計センサス局 (www.indec.gob.ar) のデータを基に執筆者作成

かったことが分かる。先述したように、フェルナンデス政権はコロナ対策の初期対応で高評価を受けていたが、次第にほころびも生じた。その一例が、「Vacunatorio VIP」と呼ばれたワクチン接種のスキャンダルであり、優先的にワクチン接種を受けられるよう友人たちに便宜を図ったとされたヒネス・ゴンサレス・ガルシア保健相が2021年2月19日に辞任を余儀なくされた（*La Nación*, 20 de febrero de 2021）。

中間選挙のフェルナンデス政権への影響

最後に、中間選挙の結果がもたらす影響について検討したい。「全国民のための戦線」の敗北により、今後のフェルナンデス政権の運営はどのようなものになると考えられるであろうか。第一に、上下両院で単独過半数を確保していないことにより、政策の立法化がより困難になる点が挙げられる。

表2: 歴代政権下における大統領提出法案の成立数(2002～21年)

	成立法案		過半数	
	数	月平均	下院	上院
ドゥアルデ政権	131	7.71	×	○
キルチネル政権	201	3.72	△	○
第一期クリスティーナ政権	178	3.71	△	△
第二期クリスティーナ政権	218	4.54	○	○
マクリ政権	76	1.58	×	×
フェルナンデス政権	34	1.42	×	○

(注) ○は与党・与党連合が過半数の議席を確保していたこと、×は確保できなかったこと、△は一部確保できていなかった時期があることを示している。フェルナンデス政権については、2021年12月9日までのデータ。出所: Di Mauro (2019); 菊池 (2020) および下院のHP (www.hcdn.gob.ar) のデータを基に執筆者作成

表2は、2002年以降の歴代政権下における大統領提出法案の成立数と上下両院における与党のシェアとの関係を示したものである。アルゼンチンの立法過程においては、両院の間で異なる議決がなされた場合、先議院の決定が優先される。また、大統領は上下両院の何れにも法案を提出することが可能である。そのため、ドゥアルデ政権（2002～03年）から第二期クリスティーナ政権（2011～15年）までの正義党の大統領は少なくとも上院での単独過半数が担保されていることを利用して政権運営を優位に進めてきた（Kikuchi 2018）。

フェルナンデス政権においては、コロナ対策が基本的に大統領令によって実施されてきたことと議会

審議が一時期オンライン化されたこともあり、2021年12月までの成立法案数は34にすぎず、月平均でも上下両院における過半数割れの影響に苦しんだマクリ政権を下回る1.42である。しかし、上院でも単独過半数を確保できていないことにより、月平均値がさらに低下する恐れがある。その最たる例が2022年予算案の否決であり⁵、フェルナンデス政権は2021年予算を大統領令で延長することによって2022年の政権運営を行うことを余儀なくされている。

また第二に、与党連合の結束を保つことがより困難になると考えられる。現政権は、クリスティーナの長男であるマキシモ・キルチネル下院議員が率いる政治グループ「ラ・カンボラ（La Cámpora）」やキシロフ・ブエノスアイレス州知事といったキルチネル派、キルチネル派に属さない州知事や彼らの影響を受けている上院議員・下院議員からなる地方正義党（PJ Territorial）、マッサ下院議員率いる刷新戦線（Frente Renovador）、フェルナンデスの側近らに支えられる「連立政権」である。発足時は21の閣僚ポストが上下両院における各勢力のシェアを考慮し配分されていたが（菊池 2020）、現在はキルチネル派7閣僚に対して地方正義党5閣僚になっている。また、予備選挙後に副大統領であるクリスティーナが公表した政権批判の書簡とキルチネル派閣僚の辞表提出騒動に端を発する2021年9月20日の内閣改造を受けて、フェルナンデス大統領の右腕であるサンティアゴ・カフィエロが官房長官から外相に横滑りしている（*La Nación*, 20 de septiembre de 2021）。

予備選挙・中間選挙の結果を受けてクリスティーナ副大統領とフェルナンデス大統領の対立が顕在化しているが、その一例が2022年3月のIMFとの債務再編合意への承諾を求める法案の審議であった。同年3月3日のスタッフレベルでの合意内容によれば、今後2年半の間に3か月毎のIMFによる経済政策レビューが行われ、返済期間は2026～34年となるものであるが⁶、3月11日に下院、17日に上院で可決されたものの、「ラ・カンボラ」の議員やクリスティーナに近い議員は反対票を投じ、上院議長であるクリスティーナは採決時に欠席した（*La Nación*, 17 de marzo de 2022）。しかしその一方で、フェルナンデス政権は地方正義党や野党連合に接近できる状況でもない。というのも、財政再建を目指した大豆粉や大豆油に対する輸出課徴金の値上げが行われたが、野党連合だけでなくペロッティ・サンタフェ州知事

をはじめとする地方正義党も反発しているためである (La Nación, 19 de marzo de 2022)。このように、与党連合の結束を保つことが難しい中、フェルナンデス大統領は残りの任期を乗り切る必要があるのである。

むすび

与党連合「全国民のための戦線」はなぜ 2021 年中間選挙で敗北したのであろうか。また、その敗北は今後の政権運営にどのような影響を与えるのであろうか。本稿では、選挙結果を確認したうえで、これらの問いを検討した。そして、前者の問いについては、中間選挙の結果のかかなりの部分が経済投票によって説明される点と現政権の腐敗に対する厳しい眼もある点、後者の問いについては上下両院で単独過半数を確保していないことにより政策の立法化が困難になる点と与党連合の結束を保つことが困難になってきている点を指摘した。

IMF との債務再編にも合意し、今後の経済発展に向けて極めて重要な時期を迎えているアルゼンチンであるが、フェルナンデス大統領は難しい舵取りを強いられていると言えよう。

参考文献

菊池啓一 (2018) 「2017 年中間選挙とアルゼンチン政治におけるその意味」『ラテンアメリカ時報』2017/18 年冬号 No.1421: p.14-17。
 菊池啓一 (2020) 「荒海に乗り出したアルベルト・フェルナンデス政権—アルゼンチンの新『連立政権』の行方—」『ラテンアメリカ・

レポート』37 (1) : p.14-30。

Di Mauro, José Ángel. 2019. *Gobernar en minoría: El karma de la gestión Cambiemos*. Buenos Aires: Corregidor.

Kikuchi, Hirokazu. 2018. *Presidents versus Federalism in the National Legislative Process: The Argentine Senate in Comparative Perspective*. Cham: Palgrave Macmillan.

(新聞)

La Nación 紙

- 1 2 年ごとに半数改選されるが、全体としての定数は各州 5 名 (ティエラデルフエゴ州など 10 州) ~ 70 名 (ブエノスアイレス州) である。
- 2 各政党・選挙連合は予備選挙に単独もしくは複数の候補者リストを擁立する義務がある。詳細については、菊池 (2018) を参照されたい。
- 3 ブエノスアイレス市では「La Avanza Libertad」という選挙連合名で登録された。
- 4 無論、「国の経済状況」を選択した回答者の多くが元々「変革のために共に」支持者であった可能性も否定はできない。
- 5 ただし、2021 年 12 月 17 日に同予算案を 121 対 132 で否決したのは下院であった。<https://www.parlamentario.com/2021/12/17/duro-golpe-para-el-fdt-casi-toda-la-oposicion-voto-en-contra-del-presupuesto-2022-y-fue-rechazado/> (2022 年 3 月 25 日アクセス)。実際、上院には与党連合に近い立場をとる非正義党議員もいるため、現状において法案通過がより困難であるのは下院の方であると考えられる。
- 6 <https://www.bloomberglinea.com/2022/03/04/acuerdo-argentina-fmi-ingreso-al-congreso-que-dice-la-letra-chica/> (2022 年 3 月 25 日アクセス)

(きくち ひろかず 日本貿易振興機構 (JETRO) アジア経済研究所
 地域研究センターラテンアメリカ研究グループ副主任研究員)

ラテンアメリカ参考図書案内



『貝殻が語る環境と人 —ペルーの海と先史時代の漁撈民』

荘司 一步 風響社

2021 年 10 月 64 頁 700 円+税 ISBN978-4-89489-303-0

著者は国立民族学博物館外来研究員。本書は総合研究大学大学院博士課程時に、ペルー北部クルス・ベルデ遺跡から出土する貝殻に着目して、先史時代の漁撈民の貝類採集活動に迫った分析の成果を取り纏めたもの。現在この海域はエル・ニーニョ現象によって漁民の生活が不安定化しているが、紀元前 4200 ~ 3800 年の彼らの漁撈が常に自然環境下の資源の許容量を超えることがないように組織されており、その戦略が無理のない形で柔軟に適応することに成功した要因だったことを明らかにしている。

現代の人々がこれまで慣れ親しんできた生活水準に固執するあまり、環境を破壊させてまで枯渇する資源を技術で補おうとしているが、ペルーの先史時代の漁撈民が変化に即して自然環境を補いつつ生きてきた歴史を知ることによって、環境への適応の仕方は様々ありその方向も多様であることを教えてくれるという結語の意義は重い。ブックレットではあるが、若い研究者の体験に根ざした最新の研究成果を広く発信しようとするシリーズの 26 巻目の新刊。

(桜井 敏浩)